

資料 Data

教養的教育科目『教養ゼミ』における大学博物館利用と 学生による評価—広島大学の事例から

橋本知佳¹

Usage Conditions of University Museum Acquired from General Learning “Introductory Seminar” and Evaluation of Museum by Students—from Episode of Hiroshima University

Chika HASHIMOTO¹

要旨：本報告では、前半で2007年度から2012年度までの教養ゼミでの利用状況を分析した。特に学部ごとの利用頻度の違いについて、利用を制限する要因の相違を考察し、今後の利用推進に有効な資料とした。後半では、2010年度から2012年度に渡って実施した学生へのアンケート調査を分析した。博物館の施設や展示への来館者視点での評価を考察し、来館者が快適に過ごせる空間作りの重要性を認識した。さらに、同調査により教養ゼミで総合博物館を見学することの意義と成果を確認した。その結果、教養ゼミへの対応は今後も継続して実施すべき重要な活動であると評価した。

キーワード：広島大学総合博物館、授業利用、団体見学、教養ゼミ、大学生、アンケート調査

I. はじめに

広島大学総合博物館では、見学団体に施設の主旨や展示内容をより深く理解してもらうために、スタッフによる解説を行っている。年間100件前後の団体利用があるが、その中で2割弱を占めるのが、学部の新生を対象とした授業「教養ゼミ」¹⁾での博物館施設の利用である。

広島大学総合博物館は2006年11月に展示の拠点となる本館²⁾がオープンした。また、2008年4月には、キャンパス内の河川に沿った里山環境を残すエリアに自然散策道“発見の小径”を整備し、本館と連携して“キャンパスまるごとミュージアム構想”に従って活動を続けている。総合博物館の展示内容や解説は、広島大学の歴史や研究、またキャンパスを含む身近な地域の自然や環境などをテーマにしているため、新生を対象とした教養ゼミにとって、特に有意義であると考えられる。

総合博物館の教養ゼミへの対応は、2007年度に始め、以後2012年度まで6年間継続して行ってきたが、利用数は年々増加してきている。総合博物館が実際に行う作業は、教養ゼミ担当教員への周知と申し込みへの対応、そして利用時の解説である。まず教養ゼミで

の利用を促進するため、新年度が始まるまでに、全学部の教養ゼミ担当教員に向けてチラシ(図1)と電子メールで広報を行っている。利用を希望する教員は、個別に総合博物館へ問い合わせ、申し込みを行う。申込期限は設けておらず、1セメスターが終わる7月末まで随時受け付けている。これは、学部ごとに授業の計画性に違いがあるため、申込時期も旧年度内から実施の前週まで多様であることに対応している。授業時の解説は、基本的に2グループを同時に実施することではなく、1グループに対して一名の博物館職員が担当し、約40分の解説を行っている。

本報告では、2007年度から2012年度までの教養ゼミでの利用状況を分析する。団体数や入館者数と、その所属学部などの検討により利用者の傾向を明らかにし、さらに今後に向けた課題を明らかにする。また、2010年度以降に教養ゼミで来館した学生を対象に実施してきたアンケート調査の結果を分析する。アンケート結果により、博物館に対する学生、特に新生からの評価・感想などを提示した上で、それを分析し、博物館本館の施設や展示、その他について現状を見直し、今後の課題を明らかにしたい。広島大学総合博物館では、教養ゼミについての評価は本報告が初めてで

教養ゼミご担当の先生方へ

総合博物館を教養ゼミで活用しませんか？

■メリット

- ・広島大学の歴史をわかりやすく学ぶことができます。
- ・東広島キャンパスのジオラマや変遷の写真パネルにより、キャンパスの概要（部局の位置、自然環境）が理解できます。
- ・文理横断型の展示なので、どの学部にも対応しています。
- ・キャンパスの周辺地域に関する展示（瀬戸内海・中国山地）が多く、この地域で生活する新入生に興味をもってもらえます。
- ・博物館の教員あるいは学芸職員が対応して、展示解説をします。

■お申し込みの方法と注意

- ・下記に連絡してご予約をお願いします。
- ・開館時間は、10時～17時です。
- ・月曜日は休館日ですので、利用できません。



博物館は、教育学部 L105 講義室です

■問い合わせ先


広島大学総合博物館
 Hiroshima University Museum

内線 4212
 museum@hiroshima-u.ac.jp
 http://home.hiroshima-u.ac.jp/museum

図 1. 教養ゼミ担当教員への配布用チラシ

あり、貴重な機会となろう。本報告で得られた評価や課題を博物館業務に活かし、より多くの学生に充実した博物館体験を提供できるように、今後の活動改善の指針としたい。

II. 研究の方法

1. 教養ゼミによる利用状況

教養ゼミによる利用状況の分析は、2007年度から2012年度までの1セメスター（4月から7月）を対象に行った。利用グループ数や利用者数などの分析に用いた数値は、総合博物館の入館記録³⁾を参考にした。また教養ゼミでの利用については、利用日時とグループの人数、所属学部と担当教員名を記録している。なお、教養ゼミでの利用には、本館コースに加え発見の小径コースの見学に参加したグループも含まれる。

各学部での教養ゼミの実施状況は、その概要を2012年度のシラバスによって把握した。同時に、毎年の実施状況など詳細については、各学部の学生支援グループの学士課程担当職員から情報を得た。

2. 教養ゼミで来館した学生へのアンケート調査

アンケート調査は、教養ゼミで来館した学生に対して随時実施した。本報告では、2010年度から2012年度までに得られた290名からの回答を分析する。ただし、2010年度と2011年度の間に調査票が更新され、設問の内容も変更されている。また2011年度以降はアンケート形式も大きく異なるため、本報告では特に学生の総合博物館に対する評価に有意な項目を選出し、分析に供した（表1）。そのため、それぞれの設問に対する回答数が異なっている。なお、Q2-6)とQ8、Q9は記述式を用いてより具体的な意見を聞くこととし、それ以外は選択式とした。なお、Q8、9に

表 1. 教養ゼミで実施したアンケート項目一覧

Q1	本日の来館は何回目ですか？番号を○で囲んで下さい。	1: 初めて	2: 二回目	3: 三回以上	4: わからない(覚えていない)	
Q2	施設全般についてお聞かせください。番号を○で囲んで下さい。					
1)	清掃・整理整頓	1: とても良い	2: 良い	3: どちらとも言えない	4: 悪い	5: とても悪い
2)	案内表示	1: とても良い	2: 良い	3: どちらとも言えない	4: 悪い	5: とても悪い
3)	照明	1: とても良い	2: 良い	3: どちらとも言えない	4: 悪い	5: とても悪い
4)	空調	1: とても良い	2: 良い	3: どちらとも言えない	4: 悪い	5: とても悪い
5)	バリアフリー	1: とても良い	2: 良い	3: どちらとも言えない	4: 悪い	5: とても悪い
6)	その他必要な施設がありましたらご記入ください。[自由記述]					
Q3	展示室についてお聞かせください。番号を○で囲んで下さい。					
1)	展示室の規模	1: とても広い	2: 広い	3: ちょうど良い	4: 狭い	5: とても狭い
2)	資料数	1: とても多い	2: 多い	3: ちょうど良い	4: 少ない	5: とても少ない
3)	展示方法	1: とても難しい	2: 難しい		4: やさしい	5: とてもやさしい
Q4	展示パネルについてお聞かせください。番号を○で囲んで下さい。					
1)	文字	1: とても大きい	2: 大きい	3: ちょうど良い	4: 小さい	5: とても小さい
2)	情報量	1: とても多い	2: 多い	3: ちょうど良い	4: 少ない	5: とても少ない
3)	内容	1: とても良い	2: 良い	3: どちらとも言えない	4: 悪い	5: とても悪い
Q5	職員の対応についてお聞かせください。番号を○で囲んで下さい。					
1)	言葉づかい	1: とても良い	2: 良い	3: どちらとも言えない	4: 悪い	5: とても悪い
2)	マナー	1: とても良い	2: 良い	3: どちらとも言えない	4: 悪い	5: とても悪い
3)	対応の早さ	1: とても良い	2: 良い	3: どちらとも言えない	4: 悪い	5: とても悪い
4)	対応の仕方	1: とても良い	2: 良い	3: どちらとも言えない	4: 悪い	5: とても悪い
5)	展示解説	1: とても良い	2: 良い	3: どちらとも言えない	4: 悪い	5: とても悪い
Q6	当館の配布物についてお聞かせください。番号を○で囲んで下さい。					
1)	パンフレット	1: とても良い	2: 良い	3: どちらとも言えない	4: 悪い	5: とても悪い
2)	広島大学東広島キャンパス地図	1: とても良い	2: 良い	3: どちらとも言えない	4: 悪い	5: とても悪い
3)	発見の小径マップ	1: とても良い	2: 良い	3: どちらとも言えない	4: 悪い	5: とても悪い
Q7	本日のご来館について感想をお聞かせください。番号を○で囲んで下さい。					
		1: とても良かった	2: 良かった	3: どちらとも言えない	4: 悪かった	5: とても悪かった
Q8	展示内容への感想 [自由記述]					
Q9	博物館全体への感想 [自由記述]					

についてはアンケートに記された原文をそのまま使用した。

III. 教養ゼミでの利用状況

2007年度から2012年度までの教養ゼミによる利用状況を、グループ数と利用者数についてまとめた（表2）。2007年度に教養ゼミによる利用が始まってから、利用数は一貫して増加傾向にあり、2011年度にはグループ数が、2012年度には利用者数が、それぞれ2007年度の2倍以上になっている。また、2012年度の教養ゼミにおける利用者数は、のべ567名で、同じグループによる本館コースと発見の小径コースの重複利用を差し引くと、510名が利用していた。同年度の広島大学への入学者数は2,494名であるため、その約2割が教養ゼミで博物館を利用していることになる。

次に、担当教員のリピート率について分析した。ま

表 2. 教養ゼミの利用者数・利用グループ数と教員のリピート率

年度	2007	2008	2009	2010	2011	2012
利用者数	209	264	307	273	357	567
利用グループ数	13	18	18	24	28	32
リピート率	0.0%	17.0%	22.0%	25.0%	32.0%	59.0%

資料：総合博物館の入館記録より

ず、担当教員ごとの過去6年間の利用状況を把握し、各年度に利用のあった担当教員のうち過去に利用経験のある教員の割合を計算することで、リピート率を調べた(表2)。その結果、2010年度には25.0%、2011年度には32.0%、そして2012年度には59.0%の教員がリピーターであった。なお、2011年度から2012年度の間でリピート率が大きく上昇しているが、これは、2012年度より発見の小径の利用者が増加し、同じ教員が年度内に二度利用するパターンが現れたためである。

さらに、学部別の利用頻度の違いについて検討した(表3)。文学部、工学部、生物生産学部は2007年度以降、教育学部は2008年度以降、毎年多くのグループが利用している。一方、医学部、歯学部、薬学部による利用は一度もなかった。総合科学部、法学部、経済学部、理学部については、利用は非常に稀で、年度によって利用のない場合もあった。このように学部によって教養ゼミでの利用頻度が大きく異なるのはなぜであろうか。2012年度のシラバスや学部の事務担当者への聞き取り調査の結果(表4)から、次の3点がその理由として推察された。

① 開講キャンパスの相違

まず、各学部における教養ゼミの開講キャンパスの違いが考えられる。これまで一度の利用も無かった医学部、歯学部、薬学部では、教養ゼミの開講キャンパスが霞キャンパス(広島市)であり、東広島キャンパス(東広島市)に所在する総合博物館の利用が困難であったと考えられる。

② 開講曜日と開講時間の相違

次に、各学部における教養ゼミの開講曜日と開講時

間の違いが考えられる。総合博物館の開館時間は、火曜日から土曜日の10時から17時である。教養ゼミの開講が、総合博物館の休館日となる月曜日である場合、または、総合博物館の開館時間外となる1・2時限(8:45-10:15)、9・10時限(16:20-17:50)である場合には、教養ゼミでの利用は制限されると考えられる。

そこで、各学部の教養ゼミの開講曜日と開講時間を表4に記した。ここで注目されるのは、実施曜日と実施時間の多様性である。学部ごとに統一した実施曜日・時間を設けているのは、総合科学部と文学部、そして①で開講キャンパスの違いが明らかになった医学部、歯学部、薬学部である。総合科学部の教養ゼミは総合博物館の休館日である月曜日に実施されており、このことが、総合科学部からの利用がほとんどない理由と考えられる。一方、文学部の教養ゼミは、総合博物館の開館する曜日・時間内に実施されており、そのことが毎年利用グループが多いことにつながっているであろう。その他の学部では、複数の実施曜日・時間が設定されているが、特に経済学部は4通りある全てが、総合博物館の利用が制限される曜日・時間帯となっている。このことが、経済学部の教養ゼミによる利用が稀である原因となっていると考えられる。

③ 教養ゼミでの授業内容の相違

教養ゼミは、10人前後の少人数グループで、大学での学びの基礎となるオリエンテーションなどを実施する全学共通の講義である。しかし各学部の学生支援グループ学士課程担当職員への聞き取りによると、実際の実施は、学部や学科、専攻、コースなど、多様な体制のもとに実施されていることがわかった。そのため、同じ学部内であっても実施内容や担当教員の自由度にも大きな違いが現れる。図書館のような利用講習が義務づけられている学内施設とは異なり、総合博物館の見学は任意である。そのため、この自由度の違いが利用状況に大きく関与していると考えられる。今後、利用グループの増加を図るには、担当教員の所属学部だけでなく、より詳細な所属を記録し、利用状況を把

表 3. 学部別の利用グループ数

年度	グループ数	総合科学部	文学部	教育学部	法学部	経済学部	理学部	医学部	歯学部	薬学部	工学部	生物生産学部	不明
2007	13	0	4	0	0	0	0	0	0	0	3	4	2
2008	18	0	4	2	0	0	1	0	0	0	4	5	2
2009	18	0	3	4	1	1	1	0	0	0	4	3	1
2010	24	0	6	3	0	1	0	0	0	0	9	4	1
2011	28	0	10	7	1	0	0	0	0	0	10	3	0
2012	32	3	5	4	1	1	0	0	0	0	13	5	0

資料：総合博物館の入館記録より

表 4. 学部ごとの教養ゼミ実施概要

学部	曜日	時限	開講キャンパス
総合科学部	月	3・4	東広島キャンパス
文学部	水	5・6	東広島キャンパス
教育学部	月	5・6	東広島キャンパス
	水	3・4 7・8	
法学部	水	5・6	東広島キャンパス
		7・8	
経済学部	月	7・8	東広島キャンパス
	水	1・2	
	金	9・10	
理学部	月	3・4	東広島キャンパス
	木	1・2	
		7・8	
		9・10	
医学部	水	7・8	霞キャンパス
歯学部	水	5・6	霞キャンパス
薬学部	水	7・8	霞キャンパス
工学部	火	9・10	東広島キャンパス
	水	5・6	
		7・8	
	金	9・10	
生物生産学部	水	7・8	東広島キャンパス
	月	5・6	

注：1・2 時限 [8:45-10:15]

3・4 時限 [10:30-12:00]

5・6 時限 [12:50-14:20]

7・8 時限 [14:35-16:05]

9・10 時限 [16:20-17:50]

資料：広島大学シラバス 2012 より

握することが不可欠である。

IV. 学生による総合博物館の評価

今回のアンケート調査（表1）では、回答者の対象は学生であり、その評価を把握し考察することは、これからの総合博物館の活動を改善する上で、非常に有効であると考えられる。

1. 教養ゼミでの博物館見学の効果

はじめに、教養ゼミでの博物館見学に参加した学生の総合博物館への来館回数を、アンケート項目 Q1 の結果から調べた。その結果（図2）、「初めて」が92.0%と大半を占め、「二回目」が7.3%、「三回以上」が0.7%と続いた。このことから、ほとんどの学生が教養ゼミの受講で、初めて博物館を訪れていることがわかった。教養ゼミでの博物館見学は、総合博物館の存在を認識し、利用してもらうきっかけとして、大きく貢献していると言える。

次に、Q7で見学後の満足度（図3）を見ると、「とても良い」60.3%、「良い」38.9%、「どちらとも言えない」0.8%で、「悪い」、「とても悪い」は共に0.0%

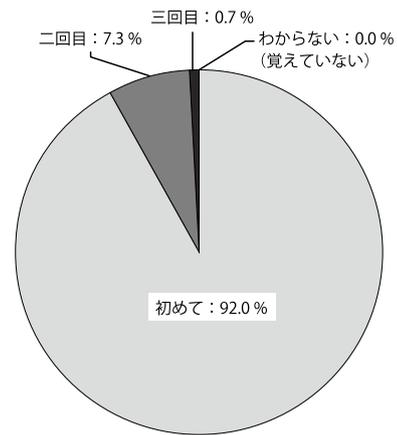


図 2. 学生の総合博物館への来館回数

資料：教養ゼミへのアンケート調査より

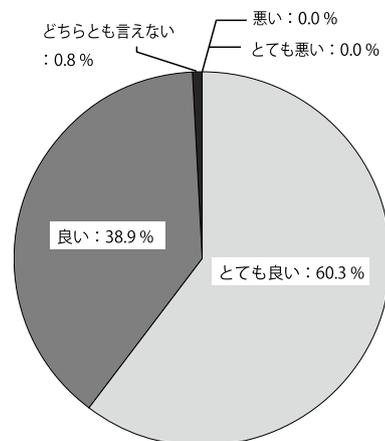


図 3. 学生の総合博物館への満足度

資料：教養ゼミへのアンケート調査より

であった。「とても良い」と「良い」を合わせると99.2%もの学生が好意的な評価をしている。Q9の博物館全体への感想（表9）には、「広島大学にこういった施設があって感動しました」、「キャンパス内にこんな立派な博物館があったのかと驚いた」など、大学に博物館があることを評価している記述があり、「他大学の知り合いが何らかの理由で広島に来たときに、いろいろ教えてあげたい」など、今後、積極的に知人に勧めたいとの意見も見られた。また、Q8の展示への感想（表8）では、「めずらしい化石があって感動しました。触れる物が多くてよかった。」、「見たことのないものが多く、また広島大学内の中にいる動植物の展示もあり、好奇心をそそる」、「自分の興味をもっと広げ、専門外のことも知って行きたいです」と感動体験を記す学生も少なくない。総合博物館の見学を通して実物に触れるといった体験は、学生の好奇心を刺激することに繋がり、教養ゼミのテーマである知的活動

への動機付けにも貢献していると思われる。

2. 博物館施設・設備への評価

まず館内施設・設備の評価について、アンケート項目の「Q2-1：清掃・整理整頓」, 「Q2-2：案内表示」, 「Q2-3：照明」, 「Q2-4：空調」, 「Q2-5：バリアフリー」(選択式)と「Q2-6：必要な施設設備」(記述式)への回答(表5)およびQ9の感想(表9)をもとに考察した。これらの項目は、来館者がストレスを感じる事無く、快適に利用をするための基本として大変重要である。

まず、清掃・整理整頓では「とても良い」89.4%と「良い」9.9%, 案内表示では「とても良い」81.4%と「良い」17.9%, 照明では「とても良い」75.5%と「良い」23.2%と、いずれも「とても良い」と「良い」と言った好意的な評価が98%を超えている。Q9の感想でも、「なんだかとても落ちつく空間なので、気軽に訪れたい」や「憩い・癒しの場になる」, 「時間が空いたときに見に来たい」など、館内の雰囲気が来館者に好感を得ていることがわかった。

次に、「空調」については、「とても良い」69.5%, 「良い」22.5%を合わせて92.0%の学生が良好との評価をしている。しかしわずかではあるが、「どちらとも言えない」7.3%や「悪い」0.7%という評価も現れる。また、Q9の感想(表9)でも、「少し暑かった」, 「少し暑いかもしれないです」や、逆に「ちょっと寒いかもです」などの評価がみられた。一方で、「涼みにきたい」という意見もあり、空調については今後の検討と適切な改善が求められる。

「バリアフリー」については、「とても良い」56.3%または「良い」25.8%を合わせて82.1%の学生から、概ね良好な評価結果が得られた。しかし、「どちらとも言えない」16.6%と「悪い」1.3%という評価もみられ、他の調査項目と比較するとわずかに評価は落ちる。しかし、今回のアンケートではどの点に問題があるかといった設問がなかったため、具体的な意見を得ることはできなかった。今後、改善すべき点を把握するための項目を加えたアンケート等を行う必要がある。

最後に、Q2-6で博物館に必要な施設の具体例を求めたところ、「トイレ」, 「授乳室」, 「水が飲める場所」が挙げられた。これは、総合博物館が大学の講義室を改装して作られたため、外来施設としてのアクセシビリティが不十分であることが背景にあると考えられる。来館者にとって展示・学習のための施設だけではなく、快適に滞在できる設備や空間が充実していることが重要であるといえよう。

3. 展示への評価

展示への評価では、はじめにアンケート項目の「Q3-1：展示室の規模」, 「Q3-2：資料数」, 「Q3-3：展示方法」(選択式)への回答(表6a)から展示室と展示構成への評価を考察した。まず展示室の規模についての評価は、「とても広い」7.0%, 「広い」3.1%で、合わせて10.1%のみとなり、「ちょうど良い」が全体の半数をこえる56.6%, 「狭い」31.0%, 「とても狭い」2.3%と続いた。次に資料数については、「とても多い」7%, 「多い」6.2%で、こちらも「ちょうど良い」が66.6%と半数を上回り、「少ない」19.4%, 「とても少ない」0.8%となった。一方、展示方法は「とても良い」26.6%, 「良い」52.3%, 「どちらとも言えない」21.1%で、「悪い」, 「とても悪い」は共に0.0%であった。以上のことから、教養ゼミにおける学生来館者は、展示室の規模は少し狭いが、展示物の数や展示方法は適切という印象を抱いていることがわかる。これはQ9の感想(表9)で、「狭いけれど内容は濃かった」, 「広いとは言えないスペースで、これだけの展示ができるのはすごい」, 「規模は小さいように思えるけど、とても内容の濃い展示物ばかりで楽しめた コンセプトもすごい伝わってきた」などの評価が見られることも、その証明となる。さらに、「期待はしていなかったが、意外と充実していた」, 「想像以上に面白かった」, 「はじめは狭い場所で大したものがないのかなと心配だったが、広大な博物館として、いろいろ知れて良かった」など、施設が小さいことで与えるネガティブな印象が、展示資料数や展示方法などによって、見学後に変化した例も見られた。

表5. 博物館施設・設備への評価

	とても良い	良い	どちらとも言えない	悪い	とても悪い
清掃・整理整頓	89.4%	9.9%	0.7%	0.0%	0.0%
案内表示	81.4%	17.9%	0.7%	0.0%	0.0%
照明	75.5%	23.2%	1.3%	0.0%	0.0%
空調	69.5%	22.5%	7.3%	0.7%	0.0%
バリアフリー	56.3%	25.8%	16.6%	1.3%	0.0%

資料：教養ゼミへのアンケート調査による。

表 6. 展示への評価

a) 展示室・展示構成への評価					
展示室の規模	とても広い 7.0%	広い 3.1%	ちょうど良い 56.6%	狭い 31.0%	とても狭い 2.3%
資料数	とても良い 7.0%	良い 6.2%	どちらとも言えない 66.6%	悪い 19.4%	とても悪い 0.8%
展示方法	とても良い 26.6%	良い 52.3%	どちらとも言えない 21.1%	悪い 0.0%	とても悪い 0.0%
b) 展示パネルへの評価					
文字の大きさ	とても大きい 8.6%	大きい 9.9%	ちょうど良い 76.2%	小さい 5.3%	とても小さい 0.0%
情報量	とても多い 12.6%	多い 13.2%	どちらとも言えない 66.9%	少ない 7.3%	とても少ない 0.0%
難易度	とても難しい 4.0%	難しい 5.9%	どちらとも言えない 88.1%	易しい 1.3%	とても易しい 0.7%

資料：教養ゼミへのアンケート調査による。

次に、展示パネルについて、アンケート項目「Q4-1：文字の大きさ」「Q4-2：情報量」「Q4-3：内容の難易度」（選択式）への回答（表 6b）をもとに評価をした。文字の大きさでは、「とても大きい」8.6%、「大きい」9.9%、「ちょうど良い」76.2%、「小さい」5.3%、「とても小さい」0.0%となり、ちょうど良いとの評価が見て取れる。情報量でも、「とても多い」12.6%、「多い」13.2%、「ちょうど良い」66.9%、「少ない」7.3%、「とても少ない」0.0%となっており、ちょうど良いという評価が過半数を占めている。内容の難易度では、「とても難しい」4.0%、「難しい」5.9%、「ちょうど良い」88.1%、「易しい」1.3%、「とても易しい」0.7%と、ちょうど良いという意見が多い。以上から、展示パネルに関する各項目については、「ちょうど良い」が高い割合を占めている。学外からも幅広い年齢層の来客のある博物館では、今後も展示パネルの情報量と難易度については、過剰にならないよう注意が必要である。

最後に、Q8（自由表記）のアンケート結果（表 8）から、展示への感想を見てみたい。まず、書かれた数として特に多かったのは、化石展示についての感想であった。「特に初めて見た化石や興味深い展示が良かった」、「思った以上に楽しかったです。とくに化石コーナーはテンションがあがりました」など、化石の展示としての印象の強さが伺える記述が少なくない。また、「東広島キャンパスのことをよく知れた上に、広島大学の歴史についてもよく知れて良かったです」、「広大にもいろんな研究をしている先生方がいて、誇りだと思った」や、「広島大学の環境が貴重だとわかって面白かった」、「広島大学近辺に多くの貴重な生物や遺跡があることに驚いた」、「緑豊かな東広島を深く知ることができ、とても興味深かった」など、広島大学につ

いてやキャンパスを含む地域の環境についての記述も複数の学生から得られた。総合博物館では、教養ゼミにおいて広島大学や身近な地域への関心の啓発を意識して解説などを行っており、以上に見られる感想から、その目的を達成していると言える。

4. 職員の対応についての評価

職員の対応と配布物への評価は、アンケート項目の「Q5-1：言葉遣い」「Q5-2：マナー」「Q5-3：対応の早さ」「Q5-4：対応の仕方」「Q5-5：展示解説」（選択式）への回答（表 7）をもとに考察した。各項目の評価結果は、言葉遣いについて「とても良い」76.7%、「良い」23.3%で、「どちらとも言えない」、「悪い」、「とても悪い」は共に 0.0%であった。マナーについても、「とても良い」80.6%、「良い」19.4%で、「どちらとも言えない」、「悪い」、「とても悪い」は同様に 0.0%であった。対応の早さについては「とても良い」73.6%、「良い」21.7%、「どちらとも言えない」4.7%で、「悪い」、「とても悪い」が 0.0%、対応の仕方は「とても良い」75.2%、「良い」22.5%、「どちらとも言えない」2.3%で、「悪い」、「とても悪い」が 0.0%、展示解説は「とても良い」72.9%、「良い」23.2%、「どちらとも言えない」3.9%で、「悪い」、「とても悪い」が 0.0%と、職員の対応については、いずれも非常に高い評価を得た。今後も、この結果におごることなく、より一層の努力をすることが肝要と考えられる。また、教養ゼミへの展示解説は、職員がローテーションでグループ毎に約 40 分の解説を実施しているが、Q9 の感想（表 9）においても、「一人で見て回るだけではわからない、いろんな話がきけて良かったです」、「詳しい説明があり、見学しやすかった」と記述がみられ、解説

表 7. 職員の対応とパンフレット等の配布物についての評価

	とても良い	良い	どちらとも言えない	悪い	とても悪い
言葉遣い	76.7 %	23.3 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %
マナー	80.6 %	19.4 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %
対応の早さ	73.6 %	21.7 %	4.7 %	0.0 %	0.0 %
対応の仕方	75.2 %	22.5 %	2.3 %	0.0 %	0.0 %
展示解説	72.9 %	23.2 %	3.9 %	0.0 %	0.0 %
パンフレット	39.1 %	56.2 %	4.7 %	0.0 %	0.0 %
キャンパス絵地図	51.2 %	44.9 %	3.9 %	0.0 %	0.0 %
発見の小道マップ	45.7 %	48.9 %	5.4 %	0.0 %	0.0 %

資料：教養ゼミへのアンケート調査による。

表 8. 展示内容への感想（一部を抜粋）

<p>■広島大学－過去・現在・未来－</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広大の歴史や広大にまつわることを知れて楽しかった ・ 広大にもいろんな研究をしている先生方がいて、誇りだと思った ・ 広大の昔の様子などに興味があったので、知ることができて良かったです ・ 東広島キャンパスのことをよく知れた上に、広島大学の歴史についてもよく知れて良かったです ・ 広島大学近辺に多くの貴重な生物や遺跡があることに驚いた ・ 広島大学の環境が貴重だとわかって面白かった
<p>■宇宙・地球</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ めずらしい化石があって感動しました。触れる物が多くてよかった ・ 化石展示が印象的だった ・ 思った以上に楽しかったです。とくに化石コーナーはテンションがあがりました ・ 化石だけでなく生きているものもいて、良かったと思う ・ 化石が多くて、驚きました。本物の恐竜の化石の大きさが印象に残りました ・ 化石などが触れるものもあり、身近にみれてよかった ・ 特に初めて見た化石や興味深い展示が良かった ・ 隕石重かった
<p>■里海</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 魚にいやされました ・ すごく楽しかったです！勉強になりました。巖島神社の復元、戻ってきたらまた来ます！
<p>■里山</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 希少動物の標本など、普段見れないものをたくさん見れてよかった ・ 広大の中にも珍しい生物がたくさんいることを知り、意外だった ・ 広大や広島周辺の生物環境をよく学べたと思います ・ 剥製のみでなく、生きたままの生物の展示は良かった
<p>■その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 飽きないように工夫されていると思った。もっと人文系も見たい ・ 見たことのないものが多く、また広大内の中にある動植物の展示もあり、好奇心をそそる ・ 地域色が出ていて良かった ・ 緑豊かな東広島を深く知ることができ、とても興味深かった ・ 自分の興味をもっと広げ、専門外のことも知って行きたいです

資料：教養ゼミへのアンケート調査による。

表9. 博物館全体への感想（一部を抜粋）

■博物館施設・設備について
<ul style="list-style-type: none"> ・ 思いを深める（展示物と語れる）空間があればなお良い ・ 広島大学にこういった施設があって感動しました ・ キャンパス内にこんな立派な博物館があったのかと驚いた ・ 他大学の知り合いが何らかの理由で広島に来たときに、いろいろ教えてあげたい ・ ほかの大学の友だちが来たら紹介したい ・ 憩い・癒しの場になる ・ 時間が空いたときにきたい ・ なんだかとても落ちつく空間なので、気軽に訪れたいとなります ・ 涼みにくる ・ ちょっと寒いかもです ・ 少し暑かった ・ 少し暑いかもしれないです
■展示について
<ul style="list-style-type: none"> ・ 広いとは言えないスペースで、これだけの展示ができるのはすごい ・ 狭いけれど内容は濃かった ・ 期待はしていなかったが、意外と充実していた ・ 想像以上に面白かった ・ はじめは狭い場所で大したものないのかなと心配だったが、広大の博物館として、いろいろ知れて良かった ・ 規模は小さいように思えるけど、とても内容の濃い展示物ばかりで楽しめた。コンセプトもすごい伝わってきた ・ シンプルで回りやすいし、見易かった ・ 展示物に触ることができたり、博物館の建物の構造を利用した展示のアイデアがとても良かったです ・ 展示室は小さめですが、その分各学部も回れるので楽しいです
■職員の対応について
<ul style="list-style-type: none"> ・ 丁寧に説明して下さってとてもわかりやすかったです。2回目だけど、楽しく見学できて、くれば来るほど味がでる(?) 感じでした ・ ガイドさんが丁寧で大変良かった ・ 説明がちょっと長い ・ 一人で見て回るだけではわからない、いろんな話がきけて良かったです ・ 詳しい説明があり、見学しやすかった

資料：教養ゼミへのアンケート調査による。

の有効性を示している。年々、利用団体が増加する中で、展示解説はますます重要な博物館活動の一つとなるが、今後も継続をしていくべきだと思われる。

5. 配布物についての評価

配布物⁴⁾への評価は、アンケート項目の「Q6-1：パンフレット」「Q6-2：キャンパス絵地図」「Q6-3：発見の小径マップ」（選択式）への回答（表7）を参考とした。これらの配布物は、博物館本館への来館者に任意で配布している。まずパンフレットについては、「とても良い」39.1%、「良い」56.2%で、「どちらとも

も言えない」4.7%で、「悪い」、「とても悪い」は0%。キャンパス絵地図については、「とても良い」51.2%、「良い」44.9%で、「どちらとも言えない」3.9%で、「悪い」、「とても悪い」は0%。発見の小径マップについては、「とても良い」45.7%、「良い」48.9%で、「どちらとも言えない」5.4%で、「悪い」、「とても悪い」は0%であった。いずれも「悪い」、「とても悪い」と評価した学生いなかった。しかし、キャンパス絵地図では「とても良い」が過半数を占めているのに対し、パンフレットと発見の小径マップでは、「良い」がおよそ半数をしめており、若干の評価の違いが見られる。

しかし、今回のアンケート結果からでは、自由記述にも配布物についての記述は見られず、具体的な評価は得られなかった。今後、今回得られた違いに着目し、改めてパンフレットを評価・改善することは有意義であると考えられる。

IV. おわりに

本報告では、2007年度から2012年度の教養ゼミによる総合博物館の利用状況を整理・分析した。総合博物館の利用記録の整理に加え、各学部での教養ゼミの実施状況を調べることで、学部による利用頻度の違いについて、実施曜日・時間と博物館の開館曜日・時間の関係など、その要因をある程度窺うことができた。毎年のリピート率の増加も重要だが、今後は全学的に役立つよう、利用する教員の視点に立った教養ゼミの受け入れ体制を再検討、より利用しやすいシステムに改善する必要がある。

また、学生へのアンケート調査を考察することで、来館者の視点からの総合博物館への現状評価を知ることができた。博物館施設や展示に関しては、その規模は小さいが、展示内容や展示物について高い評価を得ていたことは、今後の展示活動への励みにもなる、ありがたい評価であった。しかし一方で、来館者にとっては博物館が学習のためだけの施設ではなく、安心してくつろげる施設であることに改めて気づくことができた。総合博物館へは、学生だけでなく学外からも多岐にわたる来館者が訪れる。今後は、このアンケート結果を参考にして、展示内容だけでなく、来館者の立場に立った空間作りに配慮することも、広島大学内の来客施設として重視するべき点である。

これまで、教養ゼミで学生に総合博物館を見学してもらう意義として、「広島大学の歴史や研究」や「キャンパスの環境」について触れてもらうことを想定して実施してきたが、実際の効果を知りその意義を評価することができたのは大きな成果であった。さらに学生自身は、展示を見たり触ったりすることで、また職員の解説を通して、自身が期待していた以上の感動体験を見出し、このことは、他では体験できない新たな知的関心を引き出し、学ぶ楽しさを提供することができていると実感した。

教養ゼミでの展示解説の実施には、職員の努力必要であるが、今回の調査結果から、今後も継続していくだけの意義が十分にあると思われる。次年度以降の教養ゼミでの利用については、本報告で得られた学生からの評価を基に、より質の高い博物館見学を提供できるよう、改善に努めたい。

最後に、今回の調査では、教養ゼミでの利用が始まった当初から、過去5年間のデータを取りまとめて評価した。特にアンケートについては、この間には調査票と評価項目の変更があり、項目ごとの回答数の偏りが生じたため、統一して評価することが困難であった。今後は、今回の調査結果を参考に、目的を明確にした、よりの確かな調査票の作成と調査の実施を心掛けたい。また、2011年度から2012年度に利用した調査票は表裏両面に記入欄を設けたが、片面のみの記入で提出されたものが多く見られた。これも回答数の偏り、減少の原因となったため、今後は表示を改めたい。

【謝辞】

本報告に関する調査を行う上で、広島大学総合博物館のスタッフ、各学部学生支援グループ担当者より有益な助言を得た。また、学生へのアンケートの実施にご尽力くださった皆様に、厚くお礼申し上げる。そして、教養ゼミで博物館をご利用下さり、快くアンケートにご協力くださった教員、学生の方々に、心より感謝申し上げます。

【注】

- 1) 教養ゼミは、広島大学の教養教育の一環として新入生を対象に実施され、『自主的な学習によって支えられる大学教育へのオリエンテーション機能を果たすため、入学後の早い段階で知的活動への動機付けを高め、論理的・批判的な思考法と適切な自己表現能力を育てる』という教育目標の下に、大学での学び方を体得するための少人数ゼミとして実施されている。全学共通で1セメスターに開講されるが、実施曜日・時限や講義の内容はシラバスに従って設定されるため、学部や学科などの間で違いがある。基本的には、10名程度の学生グループに担当教員がついて、授業の履修方法や学内施設の利用方法、専門分野での学習方法の基礎を学ぶための、より具体的な授業内容を調整・実施している。
- 2) 本館は東広島キャンパスの教育学研究科L105講義室を改装して作られ、約250平方メートルのスペースに「広島大学—過去・現在・未来—」「宇宙・地球」「里海」「里山」の4つのゾーン展示を行っている。
- 3) 総合博物館への入館者数は、本館が開館して以来、受付担当者が目視により数取器を用いて計数し記録している。
- 4) パンフレットは、A4サイズ(210×297mm)三つ折で、博物館の展示内容や利用案内など基本情報を含む。キャ

ンバス絵地図は、用紙サイズがやや大きい約350×420mmで、これを八つ折りにしてパンフレットとほぼ同じサイズで配布している。内容は、片面が広島大学東広島キャンパスの絵地図（鳥瞰図）になっており、キャン

パス内の施設の位置や概要の案内に便利である。発見の小径マップはB4サイズ（257×364mm）で、キャンパスまるごとミュージアムとしての見所を、サテライト館や発見の小径を中心に紹介している。